



# Cisco Crosswork のアンインストール

---

この章は次のトピックで構成されています。

- [Crosswork クラスタのアンインストール](#) (1 ページ)
- [Crosswork Data Gateway のアンインストール](#) (3 ページ)
- [Crosswork アプリケーションのアンインストール](#) (5 ページ)

## Crosswork クラスタのアンインストール

このセクションでは、Cisco Crosswork クラスタをアンインストールするさまざまな方法について説明します。

- [クラスタインストーラを使用した VM の削除](#) (1 ページ)
- [vSphere UI を使用した VM の削除](#) (2 ページ)

### クラスタインストーラを使用した VM の削除

インストールが失敗した場合は、クラスタインストーラツールを使用して、クラスタの状態に基づいて以前に作成した VM をクリーンアップするか、または削除します。これは、展開が失敗した場合の重要なアクティビティです。VM 設定またはデータセンターホストに変更を加えた場合は、再展開の前にクリーンアップ操作が必要です。



---

(注) インストーラ クリーンアップ オプションは、/data ディレクトリ内のインベントリに基づいてクラスタ展開を削除します。

---

**ステップ 1** 展開情報を保存するディレクトリを入力します。

たとえば、`_cd ~/cw-cluster` などです。

**ステップ 2** ホストでコンテナを実行します。

```
docker run --rm -it -v `pwd`:/data <cw-installer docker container>
```

**ステップ 3** テンプレートファイルのコピー (v4.tfvars など) をテキストエディタで編集し、データセンターのアクセスパラメータを追加します。残りのパラメータには、ダミー値を指定するか、または操作の実行時にコマンドラインで入力できます。

**ステップ 4** `-m` フラグを使用して、`_cw-installer.sh install_` スクリプトを `clean` ディレクトティブとともに展開マニフェストで実行します。

-o オプションを追加して、データセンターから Cisco Crosswork イメージテンプレートを削除します。

次に例を示します。

```
./cw-installer.sh clean -m /data/deployment.tfvars -o
```

**ステップ 5** プロンプトが表示されたら「yes」と入力して操作を確認します。

**ステップ 6** (オプション) クラスタを迅速に (検証なしで) クリーンアップするには、次のコマンドを使用してインストーラを実行します。

```
docker run --rm -it -v `pwd`:/data <cw installer docker image> -exec './cw-installer.sh clean -m /data/deployment.tfvars'
```

## vSphere UI を使用した VM の削除

この項では、vCenter から VM を削除する手順について説明します。この手順は、アプリケーション Cisco Crosswork VM を削除するために使用されます。



- (注)
- この手順では、すべてのアプリケーションデータが削除されることに注意してください。
  - Crosswork Data Gateway の削除のみを行う場合は、次のことを実行しておく必要があります。**
    - 削除する Crosswork Data Gateway VM からデバイスを切り離します。詳細については、『*Cisco Crosswork Network Controller 5.0 Administration Guide*』の「Delete Cisco Crosswork Data Gateway VM from Cisco Crosswork」のトピックを参照してください。
    - この章の説明に従って Cisco Crosswork から Crosswork Data Gateway VM を削除します。

**ステップ 1** VMware vSphere Web クライアントにログインします。

**ステップ 2** [ナビゲータ (Navigator)] ペインで、削除するアプリケーション VM を右クリックし、[電源 (Power)] > [電源オフ (Power Off)] を選択します。

**ステップ 3** VM の電源がオフになったら、もう一度 VM を右クリックし、[ディスクから削除 (Delete from Disk)] を選択します。

VM が削除されます。

---

## Crosswork Data Gateway のアンインストール

このセクションでは、Cisco Crosswork Data Gateway を削除する方法について説明します。

- [Cisco Crosswork から Crosswork Data Gateway VM を削除する \(3 ページ\)](#)
- [Crosswork クラスタからの Crosswork Data Gateway の削除 \(4 ページ\)](#)

## Cisco Crosswork から Crosswork Data Gateway VM を削除する

### 始める前に

削除する Crosswork Data Gateway VM は以下の状態にする必要があります。


- メンテナンスモードである必要があります。
- プールの一部であったり、デバイスに接続されたりしてはなりません。

---

**ステップ 1** Cisco Crosswork UI にログインします。

**ステップ 2** ナビゲーションパネルから、[管理 (Administration)] > [Data Gatewayの管理 (Data Gateway Management)] の順に選択します。

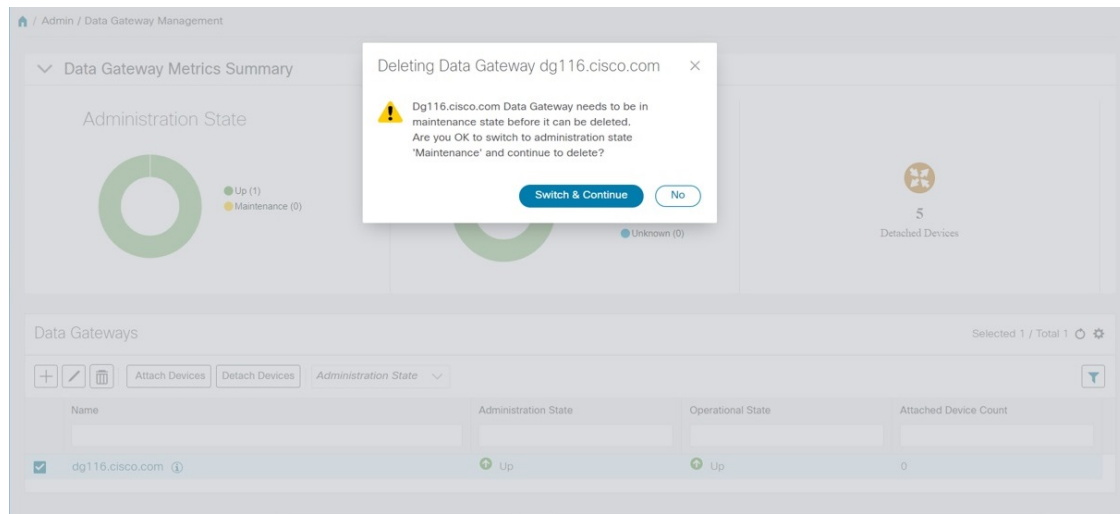
[Data Gatewayインスタンス (Data Gateway Instances)] タブをクリックします。

**ステップ 3** [Data Gatewayインスタンス (Data Gateway Instances)] リストで、削除する Crosswork Data Gateway インスタンスを見つけ、[アクション (Actions)] 列の下にある  をクリックします。

[削除 (Delete)] をクリックします。

**ステップ 4** Crosswork Data Gateway インスタンスがメンテナンス状態でない場合は、Cisco Crosswork によってメンテナンス状態に切り替えるように求められます。[切り替えて続行 (Switch & Continue)] をクリックします。

図 1: [切り替えて続行 (Switch &amp; Continue) ] ポップアップウィンドウ



Crosswork Data Gateway インスタンスが削除されます。

## Crosswork クラスタからの Crosswork Data Gateway の削除

Crosswork クラスタから Crosswork Data Gateway を削除するには、次のステップに従います。

**ステップ 1** Crosswork UI から Crosswork Data Gateway インスタンスを削除します。Crosswork UI からデータゲートウェイインスタンス名と PDG 識別子を書き留めます。

**ステップ 2** 次のコマンドを実行して、ポッドを Crosswork クラスタから削除します。

- `kubectl edit cdgoperator cdgoperator-cr -n cdg`
  - クラスタに Crosswork Data Gateway が 1 つしかない場合は、`spec` セクションの下にある `cdg_dep_plan` を含む CDG の配列を削除します。
  - クラスタに複数の Crosswork Data Gateway がある場合は、削除する必要がある `cdg_dep_plan` の下の CDG の配列エントリのみを削除して保存します。
- `kubectl delete infraservices <Data Gateway Instance Name> -n cdg`  
たとえば、`kubectl delete infraservices op-cdg -n cdg` です。
- `kubectl delete collectors collector-<PDG Identifier> -n cdg`  
たとえば、`kubectl delete collectors collector-26b0053f-5132-4379-a107-f924dfde77f4 -n cdg` です。
- `kubectl delete icon icon-<PDG Identifier> -n cdg`  
たとえば、`kubectl delete icon icon-26b0053f-5132-4379-a107-f924dfde77f4 -n cdg` です。
- オフロードポッドが存在する場合は、`kubectl delete offload offload-<PDG Identifier> -n cdg` です。

たとえば、`kubectl delete offload offload-26b0053f-5132-4379-a107-f924dfde77f4 -n cdg` です。

## Crosswork アプリケーションのアンインストール


このセクションでは、Crosswork UI でアプリケーションをアンインストールする方法について説明します。[Uninstall] オプションにより、アプリケーション、アプリケーション固有のメタデータ、関連付けられたデータが削除されます。



**注目** Crosswork アクティブトポロジ (インストールされている場合) は、Crosswork Optimization Engine をアンインストールする前にアンインストールする必要があります。

**ステップ 1** [管理 (Admin)] > [Crosswork マネージャ (Crosswork Manager)] をクリックし、[アプリケーション管理 (Application Management)] タブを選択します。

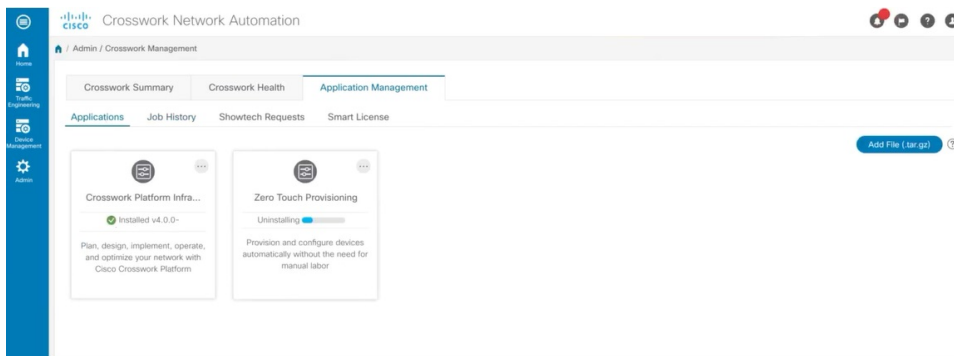
Crosswork プラットフォーム インフラストラクチャと追加されたアプリケーションは、ここにタイルとして表示されます。

**ステップ 2** アンインストールするアプリケーションタイルで  をクリックし、ドロップダウンリストから [Uninstall] オプションを選択します。

**ステップ 3** プロンプトが表示されたら、[アンインストール (Uninstall)] をクリックして確認します。

選択したアプリケーションがアンインストールされ、同じ内容を反映するようにアプリケーションタイルが変更されます。

図 2: [アプリケーション管理 (Application Management)] ウィンドウ



[Job History] ウィンドウ ([Application Management] > [Job History]) でアンインストールの進行状況を確認することもできます。アンインストールに失敗した場合は、[Job History] ウィンドウの関連オプションを使用して再試行できます。

- (注) アンインストール操作で、リポジトリから CAPP ファイルが削除されることはありません。ユーザーが将来インストールする場合に備えて、CAPP ファイルは Crosswork UI に表示されたままになります。
-

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。